



おだ かつひさ PRESS

〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1 五十嵐ハイツ102号
TEL & FAX: 044-856-5456
E-mail: oda@odakatau.com
URL http://odakatsu.com/



保育施設」が定員割れ?!

〜もっと地域型保育事業」を知ってほしい〜

川崎市は5月10日に「待機児童がゼロ」と公表しました。しかし、同時期に2481名もの保育所の空き定員(宮前区は298名)が発生していました。昨年も待機児童はゼロでしたが、同様に1996名もの空きがあったのです。待機児童対策として、2017年から6年間で、定員増約7100人分、事業費として約216億円を投入しています。

利用申請者は増加傾向

就学前児童数の減少などにより、保育所の空きがあるのに申し込み者がいない、など定員割れの保育所が増える一方で、「利用申請率」は依然として上昇しています。

区役所では、新規の保育所を整備することよりも、地域の保育ニーズを的確に把握することが大切です。利用希望者には、きめ細かく丁寧に地域の保育施設へつなぐ対応が求められています。

「地域型保育事業」を活かせ

「地域型保育事業」とは、0歳から2歳までを対象とした、定員が19名までの小規模な保育事業です。子ども的大好きな子育て経験のあるベテラン保育士などが在籍し、小規模できめの細やかな保育には定評があります。

特に「家庭的保育事業」(旧保育ママ)の定員は5人以下、小規模保育事業C型の定員は6〜10人です。ところが、定員割れの保育事業のなかで、特に運営に苦心しているのが、「この地域型保育事業」なのです。

定員の少ない施設ほど、欠員となった場合の施設運営上への影響(運営にかかる給付費減)が深刻となるからです。

知名度と長所の周知を

私はまず、利用希望者が必ず参照する「保育所等利用案内」の記述の改善を求めています。

利用者が一番知りたい情報は「延長保育時間を含めての開所時間」と「卒園後の3歳児からの受け入れの有無」と考えられます。

しかし、例えば宮前区内のC型は、17時以降の延長保育が実際には可能であることや、卒園後の受け入れについて、優先利用調整でほぼ100%、3歳児以降の受け入れが実現できている事などが、資料には記述がなく、実態が伝わらないのです。

さらに「地域型保育事業」の周知を深めるために、横浜市のような区ごとの保育施設情報の一元化と、アナウンス強化も求めています。

役所窓口の意識変革も

男女共同参画の時代、従来の待機児童対策に重点をおいた保育施策から、多様な個々人の働き方、学び方などに役立つ保育施策への転換の必要性を強く感じます。

この観点からも、「地域型保育事業」を始めとして、利用者ニーズに合わせて、的確に情報提供ができるよう、窓口職員の意識変革も議論しています。

おだかつひさ(織田勝久)プロフィール

- ◆1961年、川崎市幸区生まれ。
- ◆駒場東邦高校、中央大学 法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)
- ◆国会議員秘書を経て、2003年川崎市議会議員初当選。
- ◆現在5期目。市議会総務委員会委員長、健康福祉委員会委員長、議会運営委員会副委員長、市議会政策担当者会議メンバー、市監査委員等を歴任。みらい川崎市議団元団長、現在、まちづくり委員会委員。
- ◆2021年5月、第44代川崎市議会副議長に就任。
- ◆ボーイスカウト川崎第54団育成会長、宮前区少年野球連盟顧問、原水禁川崎市連事務局長。
- ◆尊敬する人物/ケネディー元アメリカ大統領
- ◆好きな作家/司馬遼太郎、宮城谷昌光(激動期の間人模様に興味あり)
- ◆好きな言葉/知行合一、嫌を避くる者は、皆内足らざるなり
- ◆長男と二男はそれぞれ独立、妻、猫の3人家族。有馬在住。